

## ■ はしがき

日本で英語を勉強するひとの圧倒的多数は、高校・大学の入学試験や TOEIC®・英検®で高い点数をとるのが第一の目的です。ホントを言えば「第一」というより「唯一の目的」かもしれません。

試験の結果が人生を左右することだってあります。わたしも、少しでもそういう学習者の手助けをしたいです。

この本は「英英辞典の使用」を主軸にすえて、日本の英語教育に欠けている学びの勘所(かんじょう)をおさえました。

英英辞典については

- ① これまでの英和オンリーの学び方には、どんな欠陥があるか
- ② 英英辞典を使うと、どんないいことがあるか
- ③ どんな英英辞典をどのように使っていけばよいのか

これらについて、具体的事例を示しつつ出版物・ウェブサイトやアプリの紹介も交えて解説しました。

本書全体にわたって、英文音読の質的向上にむけた、類書にない工夫がしてあります。各種試験スコアアップの隠れたコツも披露しました。

### 英文和訳の時代は終わった

大学入学共通テストにも、英検や TOEIC にも、英文和訳が存在しないのは皆さまご存知かと思います。

いっぽう各大学の入試問題、なかんずく難関大学の入試は、配点のかなりの部分が英文和訳にあてられる場合がありました。そのた

め、わたしが受けた高校の英語の授業など、英文をいかにこなれた日本語に訳するかに重点が置かれ、まるで国語の授業のようでした。目当てがそれなら、役立つのは「英和」辞典です。

いまでも京都大学のように長文の英文和訳を出題する大学もあります。それはそれでひとつの見識ですが、一般的には設問形式が非常に多様化しています。学術書の訳者としての素質をみるようなガチな英文和訳は減りました。それに近い設問形式としては英文の「主旨」を和文で「説明」ないし「要約」させる問題のほうが主流です。

『2022年受験用 全国大学入試問題正解 英語 国公立大編』(旺文社刊)の冒頭に「読解問題の設問形式別出題割合分析」がありますが、それによると純粋な「英文和訳」問題は読解問題全体の7.1%で、「和文による要約」問題が12.3%です。いちおう、この辺が「英和」ないし準「英和」の世界です。

そのいっぽうで目立つのが「英問英答」「内容一致」型の問題、すなわち、日本語を経由することなく英文の内容を別の英語表現で言い換えることがベースとなる問題です。いわば**「英英辞典」の領域に属する問題**なわけですが、これが**合計で46.5%を占めています**。

この46.5%のうちの6.9%が「内容一致(語句)」問題。**英単語の意味を問うために、4つ(ないし5つ)の英単語のなかから適切な言い換え表現となるものを選ばせる。まさに英英辞典の世界**です。

全国の中学・高校のよい子たちは、英語学習の基本として「英単語」と「和訳語」をペアで覚える勉強法に導かれ、それを支える受験英単語集を座右の書とし、英和辞典(紙ないし電子版)で補完する。しかしながら現実の大学入試では、単に**英単語の和訳語を書かせたり選ばせたりする問題は皆無**です。

**訳語を書かせるのではなく、英語による言い換え表現を選ばせる。**敵がそう来るのであれば、勉強の方法も変えなければなりません。

**英語を英語で言い換える。役立つのは「英英」辞典です。**

## 世の中の流れは「英英・英和」併用へ

文部科学省は、中学・高校の英語教育について「授業は英語で行くことを基本とする」と学習指導要領でうたっています。

そのまま読むと「授業は100% 英語でやるのが理想だ」と言いたいようです。かりに本気でそれをやりたいのなら、習熟度別の少人数授業ができるように教育システムを抜本的に変え、教育行政の予算も大幅アップさせなければなりません、そこまでの行政側のフォローはない。必要な原資を配分せず、うつくしき難題を現場に押しつけて知らん顔の姿勢は、さきの大戦の大本営もかくやというところですよ。

それはともかく、「授業は英語で」という難題に正面から向き合うとすれば、単語や文表現の意味を解説するときに**和訳とともに英英による言い換えを示していく**という姿勢が教員の側にもっとあってよいのではないのでしょうか。わたしは自分がビジネス英語を教えるとき、単語や文表現の意味はつとめて英語による言い換えで示すようにしています。そのために日々役立っているのが、まさしく「英英」辞典です。

世の中の流れは、どう見ても、「**英和**」辞典オンリーから「**英英**」「**英和**」辞典併用へと向かうべきところですよ。

ここまでのところ、だいたい納得していただけたでしょうか。

ところが、です。

「英和辞典オンリー」の状況はまったく変わっていません。書店で辞書コーナーに行けば一目瞭然。並んでいるのは英和辞典と和英辞典ばかりです。英英辞典はよほど大きな書店に行かないと置いてありませんし、あるとしても申し訳ていどに数冊だけ。英英辞典を売る気も買う気も、日本の英語界にはないようです。学校で学生・生徒に英英辞典を薦める講師・教師が、日本にどれだけいるもので

しょうか。

英語の辞書を取り巻く日本の状況は、ガラパゴスそのものです。英語能力への要求が高度化するなかで、日本の英語教育界は「英英を使う」ほうには行かず、**世界トップレベルに進化した英和・和英がのし歩くガラパゴス**と化しています。

## ガラパゴス日本を飛び出すための英英辞典

わたしは、英和辞典・和英辞典をポイ捨てせよなどと極論を言うつもりはなく、日本の高度なガラパゴス英和・和英も時たま重宝させていただきます。しかし日常的に、**知らない単語や表現の意味を調べるために使うのは圧倒的に英英辞典でありシソーラス**（類義語辞典）です。それがわたしの自然体の現実ですよ。

英語を別の英語に置き換えながら学び、類義語にも手を伸ばしていくというプロセスは、まさに**ネイティブスピーカーが若い時分に母語としての英語を習得するために経た道**です。日本人だって、その道のままに英語を習い覚えるほうが**自然**であり、**知的快感**も得られます。英英辞典を、わたしはもう手放せません。

日本の中学・高校・大学で教壇に立つ人々のどれだけが、英英辞典を使っているのでしょうか。いろんなキーワードでネット検索してみましたが、それらしいアンケート結果はありませんでした。

そもそも、学生・生徒の英語力についてはそれなりの統計がありますが、教師の実力のほどを示した統計を見たことがありません。都道府県別に英語教員のTOEICスコアの平均値を示せば、その衝撃の結果に、報ずる新聞・雑誌に大見出しがおどるのは確実でしょう。

日本のすべての英語教員が、その実力に応じた英英辞典を日常使いするようになり、日本のすべての学生・生徒もそれぞれに実力に

応じた英英を手にするようになれば、ガラパゴス日本も変わるのではないのでしょうか。

この本は、そのための第一歩です。

さいわい、いまは Amazon など多様な英英辞典をワンクリックで購入できます。電子辞書には上級者向け英英がかならず取まっていますし、英英辞典のサイトをパソコンで利用したり、英英辞典のアプリをスマホで利用したりすることも手軽にできます。

## 基礎単語 2,000 語で使いこなせる

英英辞典を使うのは、大それたことではありません。あなたも大丈夫です。ひとくちに「英英」といっても種類はいろいろ。やさしい英英なら「中学英語」を終えていれば入門可能です。なぜって、語釈 (= 単語の意味説明) が基礎単語 2,000 語のみを使って書かれていますから! あなたの英語は新たなステージを迎えるはずです。

もちろん、上級者になればなるほど使う楽しみも増えます。これも魅力です。

英英辞典を使うひとが日本でなかなか増えない理由。そのひとつに「英英辞典を使うなら、英和辞典とキッパリおさらばすべし」という妙な潔癖症(?)があるのではないのでしょうか。**英英の語釈で意味のわからない単語や表現に出会ったら、入門期には遠慮なく英和辞典で意味を確認してください。**「せっかく英英を使っているのだから」と、語釈の不明語を英英でひくと、またまた不明語が出てきて……。これでは、地獄の螺旋(らせん)階段です。

「英英辞典をひくために英和辞典を使う」というと漫才ネタになりそうですが、入門期には「なりふり」かまってはられません。

## あなたの英文音読を絶妙アシスト

ここで、本書が新機軸として全篇で採用した「**第1・第2アクセント表示**」についてご案内しておきましょう。

次の文を音読してみてください。

If you buy the TV now, we will throw in the stand for free.

わたしは商社勤務を終えたあと、英語・中国語・タイ語の講師業にたずさわっています。数ある言語のなかでも英語は発音の強弱のメリハリがしっかりした言語なのですが、受講者たちは強弱なしの棒読みだったり、強弱のつけ方に妙なクセがあったりします。

「変な」英語、「意味不明」の英語——例えば、こんなふうに。

If you buy the TV (téevée) now, we will thròw in the stànd fòr frée.

こういう珍妙な発音をしても、日本の学校英語の授業で直してもらえる機会はほぼゼロ。日本の英語教育は、いち単語内のアクセントの位置には注意を払うが、文全体のなかでの強弱のつけ方は、なおざりです。

さて、こう発音すると文意は?

「あなたがいまテレビを買うなら、我々はスタンドの中で無料で投球するだろう」

あれれ……??? 正しい強弱のつけ方と意味は、こうです。

If you **bù**y the TV (**teevéé**) **nów**, we will **thròw** **ín** the **stánd** for **frée**.

「テレビをいま買えば、スタンドも無料でおつけしますよ」

後半の in は、前置詞 (in the stánd = スタンドの中に) として弱く読むのではなく、句動詞 thròw ín (= おまけとして付ける) を構成する副詞部分 (= 「中へと」 含めるの意) として強く読まれます。

第1アクセントがついた単語 (in や frée) が最も強く読まれ、第2アクセントつきの単語 (bù y や thrò w) はふつうに読まれ、アクセント符号のない単語はまぎれて消えてしまいそうなほど弱く読まれません。この強烈なメリハリが、英語の響きです。詳しくは、p.26 からの「正しい文強勢マスターのだいじさ」をお読みください。

文中の強弱を第1・第2アクセントをつかって示した英語テキストがあれば、英語学習に極めて役立つはずです。そこで本書では掲載した英文のほぼ全てに第1・第2アクセント符号をつけました。辞書からの引用例文なども全てアクセント符号がついていますが、引用元の辞書の原文にはこのようなアクセント表示はありませんので、その点を注意喚起しておきます。

さらにもうひとつご案内があります。

## 2つの読者特典

本書をお読みになった読者の皆さんに2つの「読者特典」をご用意しました。

英英辞典を読んでいて、「語釈や例文のここがわからん!」という箇所があれば、遠慮なくわたしに質問のメールをお寄せください。メールアドレスは **ginza1gym@gmail.com** (ginza のあとは数字の1です) です。

「やっぱり自分には英英辞典はムリだ」なんて、もう言わせませんよ! わからないところは、本書の筆者のわたしに直接きいてください。

さらに、読者の皆さんには**英文添削を1度だけ無料でサービス**いたします。皆さんが自分で書かれた英文を、わたしの上のメールアドレスへメールいただければ、添削したものをPDF版でお送りします。(上の2つの特典について、詳しくは pp.224-225 をご覧ください)

この本が皆さんの英語を一新する助けになることを願っております。

令和5年6月

泉 幸男

※ TOEIC is a registered trademark of ETS. This product is not endorsed or approved by ETS.

「英検」は、公益財団法人日本英語検定協会の登録商標です。このコンテンツは、公益財団法人日本英語検定協会の承認や推奨、その他の検討を受けたものではありません。